

X I . 多文化共生について（問 28～問 29）

【問 28】豊橋市には約 1 万 8 千人の外国人市民が共に暮らしています。あなたの地区に外国人市民が増加することをどう感じますか。（複数回答：n=2,370）

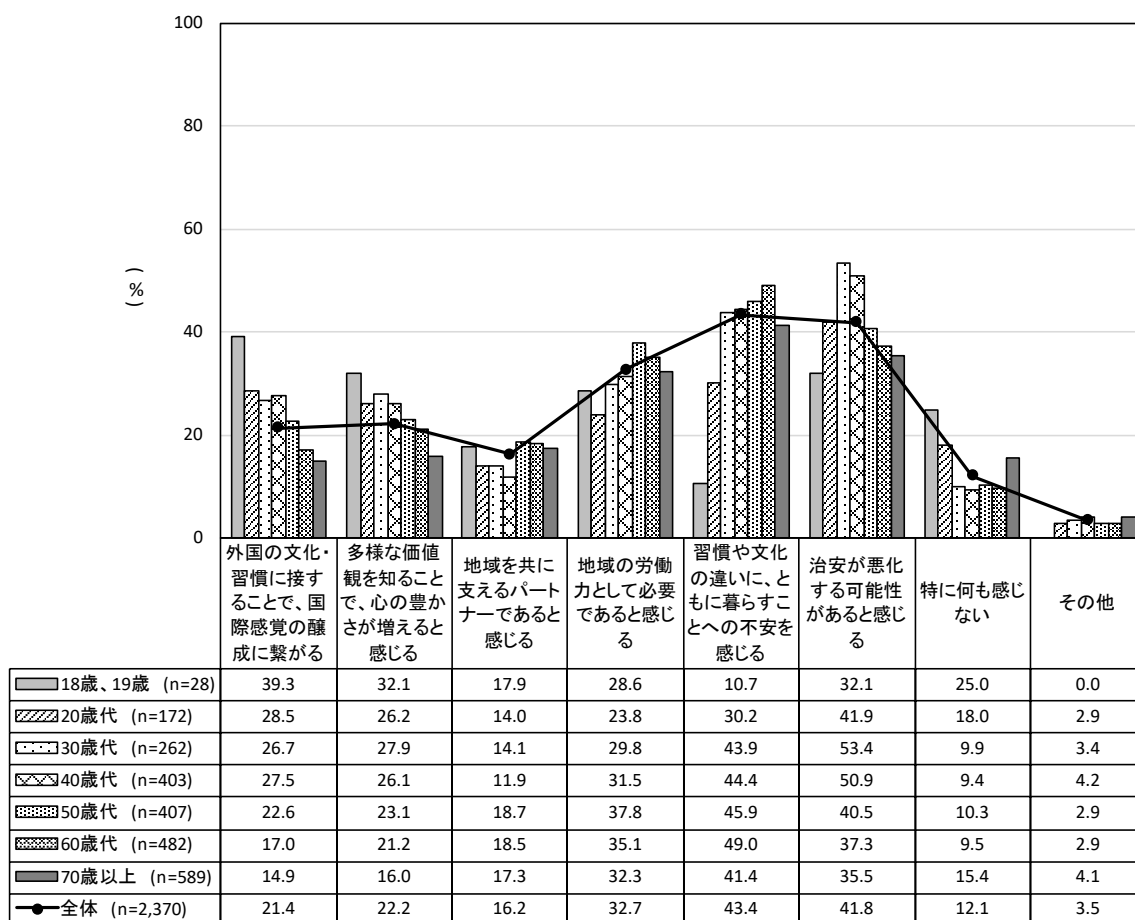
（1）全体的傾向

「習慣や文化の違いに、ともに暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が約 43%と最も高く、次いで「治安が悪化する可能性があると感じる」（約 42%）、「地域の労働力として必要であると感じる」（約 33%）と続いている。

（2）年代別にみた特性

20 歳代～40 歳代で、「治安が悪化する可能性があると感じる」と回答した人の割合が最も高く、約 42%～53%となっている。一方、50 歳代以上で、「習慣や文化の違いに、ともに暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が最も高く、約 41%～49%となっている。

また、50 歳代～60 歳代で、「地域の労働力として必要であると感じる」と回答した人の割合が約 35%～38%と高くなっている。



【問 29】あなたは外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どんな取り組みが必要であると思いますか。(複数回答：n=2,317)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が約76%と最も高く、次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」(約51%)、「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」(約47%)と続いている。

(2) 年代別にみた特性

各年代とも、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が最も高く、約69%～83%となっている。

また、50歳代以上で、「外国人市民が地域社会へ積極的に参加できるような機会の提供(防災訓練など)」(約39%～41%)、「市民団体やボランティアによる外国人市民への支援」(約23%～25%)と回答した人の割合が、他の年代と比べ高くなっている。

